



## JAFSA 40周年記念「シンポジウム&セミナー」 ～新しい価値の創造と国際教育交流～ ご案内

NPO法人JAFSA(国際教育交流協議会)

1968年に設立されたJAFSAは、国際交流ネットワーク団体として発展を続け、今や、全国の大学や教育機関など210団体以上によって構成、日本における国際教育交流の唯一かつ最大の団体となりました。そして今年、記念すべき40周年を迎えました。これを機に「新しい価値の創造と国際教育交流」という共通テーマのもとに、各種の記念事業を展開しています。

つきましては、下記の日程でシンポジウム&セミナーを開催いたします。皆様、奮ってご参加ください。

協力：慶應義塾 創立150年記念イベント

1. 日時： 2008年8月1日(金) - 2日(土)
2. 場所： 慶應義塾大学 三田キャンパス/東京  
東京都港区三田 2-15-45 <http://www.keio.ac.jp/access.html>
3. 開催内容：
  - 8月1日(金)「40周年記念シンポジウム」  
13:30～16:30 講演 16:45～18:30 レセプション(懇親会)
  - 8月2日(土)「40周年記念セミナー」  
9:00～12:00 セッションI(午前) 14:00～17:00 セッションII(午後)
4. 定員： ○ 8/1 シンポジウム(講演会)：200名 ○ 8/1 レセプション(懇親会)：200名  
○ 8/2 セミナー 各セッション：30名  
8/1, 8/2 それぞれでお申し込み承ります。いずれも事前登録制です。  
※1日のみでも両日でも参加可能です。レセプションの参加もお選び下さい。  
※8/2 のセッションは、午前・午後どちらかでも両方でも参加可能です。  
\*\*\*\*\* お申し込みは先着順です。参加申込締切：7月22日(火)まで \*\*\*\*\*
5. 参加費： ○ 8/1 シンポジウム：無料 ○ 8/1 レセプション：4,000円  
○ 8/2 セミナー：午前・午後、各5,000円 \*会員価格  
(\*セミナー参加費会員価格対象；JAFSA 会員及び 大学行政管理学会/国立大学マネジメント研究会/日本語教育振興協会の会員の方。それ以外の非会員の方は6,000円)  
※8/1 レセプションのお支払いは、当日承ります。  
※8/2 セミナーの参加費支払は、申込受付後に送付の請求書により 7月30日(水)までに  
お振込み下さい。

6. キャンセル料(8/2 セミナーについて):

7/23(水)以降にキャンセルする場合は、支払いの有無に関わらず、1セッションあたり ¥2,500 のキャンセル料を申し受けます。当日欠席については返金致しません。予めご了承下さい。

7. 宿泊(8/1-8/2 両日参加される方へ):

宿泊については参加者ご自身でご手配をお願い致します。

8. 申し込み方法:

「参加申込書」を、[JAFSA 事務局\(info@jafsa.org\)](mailto:info@jafsa.org) へメール添付にてご送付ください。

\*申込み先着順です。参加申込締切:**7月22日(火)まで**です。

\*8/2 セミナーのセッションは、**各定員 30 名で、先着順**で参加決定致します。

\*参加申込み受付後、参加決定通知(参加費請求書を含む)を JAFSA 事務局よりお送りいたします。

9. 問い合わせ先:

JAFSA 事務局 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 538 平成ビル 5 階

TEL:03-5155-3780 FAX:03-5155-3786

e-mail:[info@jafsa.org](mailto:info@jafsa.org) (事務局代表)

※本件についての慶應義塾大学へのお問い合わせはご遠慮ください。

10. スケジュール:

\*慶應義塾大学 キャンパスマップ <http://www.keio.ac.jp/access/mita.html> もご参照下さい。

(文中敬称略)

8月1日(金) シンポジウム/レセプション		
12:30~	受付	<於;慶應義塾大学(三田キャンパス)北館ホール>
13:30~13:50	挨拶	坂本 達哉(慶應義塾大学 常任理事) 白井克彦(JAFSA 会長・早稲田大学総長)
13:50~14:35	<b>記念講演 1</b> 「国際戦略と人材育成」	ブルース・ストロナク (テンプル大学ジャパンキャンパス学長)
14:35~14:50	質疑応答	
14:50~15:20	休憩	
15:20~16:05	<b>記念講演 2</b> 「国際戦略と人材育成」 日産自動車のケーススタ ディ	曾根公毅 (日産自動車株式会社 IP プロモーション部部长)
16:05~16:20	質疑応答	
16:20~16:30	まとめ、閉会	
16:45~18:30	<b>レセプション(懇親会)</b>	<於;慶應義塾大学(三田キャンパス) 図書館旧館 大会議室>

8月2日(土) セミナー

<於; 慶應義塾大学(三田キャンパス) 南館 B1F~3F 会議室>

受付:午前 8:30 - 南館 1F

セッション I (午前) 9:00 - 12:00

※下記 a-f の中からひとつ選んでご参加ください。

a. 『世界の高等教育の潮流と日本の大学』

米澤 彰純 (東北大学 高等教育開発推進センター准教授)

太田 浩 (一橋大学 国際戦略本部准教授)

【第1部】「世界の留学生政策の動向と諸課題」

海外の留学生政策の動向とその諸課題について、概観するとともに、日本の留学生 30 万人計画への示唆について議論したい。具体的には、①韓国の留学生 5 万人受入れ計画、②米国の留学生送出し 100 万人計画、③シンガポールの留学生受入れ 15 万人計画と欧米のオフショア・プログラム、④英国と豪州における留学生の質問題を取り扱う予定である。

【第2部】「日本の大学の国際化とその世界での位置づけ」

日本の高等教育の国際化の現状とその評価は、どのように大学関係者に認識されているのだろうか? また、将来展望は? 最新の政策動向について触れた上で、東北大学が文部科学省「先端的大学改革推進事業」の一環として行った大学の国際化に関する評価についての調査をもとに、現状分析と将来展望を議論する。

b. 『企業における国際人材の活用について』

松田 豊弘 (三菱商事株式会社 HRDセンター グローバル人材開発室長)

留学生 30 万人受入計画がいよいよ始動しようとしているが、一方で現在いる留学生の就職すら満足にケアできていない。さまざまな企業が「国際的企業」として、優秀なグローバルスタッフを獲得し、またそのキャリアプランを提示しようと試行錯誤し、実績を重ねてきた。

三菱商事もグローバル人事をいかに成功させていくのか、グローバル人材をマネジメントするかを研究してきている。今回このセッションでは松田氏にその課題と現実についてお話いただくが、大学に何を望むのか、また大学としてどう取り組んでほしいのか、大学としては留学生に対しこの問題について今後どういう方向性を持ち、それに対処していくのかを参加者にも持ってきてもらい、少なくとも参加型に近いセッションにしていく。受身ではなく、少なくとも積極的な参加者を求める。

c. 『中国大学入学統一試験等の認証システムの発足について～日本語教育の重要性～』

佐藤 次郎 (日本語教育振興協会 理事長)

※セミナータイトルが変更になっております

多くの留学生・就学生を日本で受け入れてきたが、日本語教育の重要性は非常に高かった。ここで大きな役割を果たしてきたのが日本語学校である。

日本語教育振興協会は 1989 年に任意団体として設営された後、翌年には財団法人として認可を受け活動している。このセッションでは留学生 30 万人計画を遂行するにあたって、日本語教育がもちうる課題と今後、大学と日本語学校が共同して行なっていくべき方向性を中心に佐藤理事長にお話いただく。(次頁へ続く)

日本語教育振興協会が中国政府と交渉して開発した「中国の大学統一試験の成績および高等学校の統一試験の合格証書と成績の認証システム」について、今後 JAFSA も連携をしつつ、大学向けに実施していきたいと考えている。そのシステムの紹介も行なう。

d. 『戦略的送り出しプログラムの開発』

近藤 祐一（立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部教授、JAFSA 理事）

坂本 友香（関西外国語大学 国際交流部主任）

大学の国際化が叫ばれる中で、日本人学生を海外に派遣する必要性がさらに強く求められている。大学が派遣留学生を送り出すことはこれまでも行われてきたが、往々にしてそれは学生交換留学であり、語学訓練プログラムであった。大学間の差別化が必要となったこの時期は、各大学の教育特色をいかに派遣留学を通して打ち出していくのかが、大学の国際化における新しい局面であろう。

このセッションでは、関西外国語大学と立命館アジア太平洋大の事例を紹介し、またグループ活動を通して戦略的な派遣留学プログラムの開発について考察していきたい。このセッションがこれまでの枠組みにとらわれないプログラム開発に貢献できればと考える。

e. 『大学の国際化に向けた職員の育成』

9:00-10:30

澤谷 敏行(関西学院大学 キャリアセンター次長、大学行政管理学会 前副会長)

10:30-12:00

本間 政雄（立命館大学 副総長(新戦略・国際担当)、国立大学マネジメント研究会会長）

JAFSAでは、今年から他団体との業務提携を積極的に進めているところである。大学行政管理学会および国立大学マネジメント研究会もこのたび、さまざまな点で広報などを含め、広く事業や業務を共有することになった。その記念も兼ねて、同団体より「大学における国際担当職員の専門化の促進」「大学における国際化のあり方」について、経験と実績を元にお話いただく。スタッフディベロップメントは非常に重要な課題でありつつ、大学によって非常に差があり、また育成プログラムの蓄積も思うようにいかない現状がある。課題をいかにして、打開していくかをぜひ共有していただきたい。

f. 『Japanese Pop-Culture, the Future of International Education? 』

（こちらはクローズとなりました）

受付: 13:30 - 南館 1F

セッションⅡ(午後) 14:00 - 17:00

※下記 g-j の中からひとつ選んでご参加ください。

**g. 『留学生30万人受入れを分析する』**

横田 雅弘(明治大学 国際日本学部教授、JAFSA 副会長)

白石 勝己(アジア学生文化協会 事務局次長)

留学生30万人の受入れの実現は、現場からみれば相当の困難が予想される。一方、世界の情勢や少子高齢化する日本の状況を考えると、大きな観点からは、この程度の受入れは必要ではないかという理屈もある。

中央教育審議会留学生特別部会ならびに一連の受入れ政策研究にかかわってきた2人のスピーカーからの情報提供を題材にして、受入れ現場、日本語学校、大学、日本全体といったミクロからマクロまで多様な視点で、この計画を分析してみたい。

なお、「留学生」とはそもそもどのような学生を意味するのかといった基本的な部分についても各国の状況などをご紹介する。

参加者の多様な観点からの建設的な意見交換を期待したい。

**h. 『大学の国際戦略・国際展開 - 慶應義塾大学 vs 早稲田大学』**

坂本 達哉(慶應義塾大学 常任理事)

内田 勝一(早稲田大学 常任理事)

グローバル社会における世界最高水準の教育・研究・社会貢献の展開をめざす慶應義塾大学。壮大な国際戦略構想と国際化推進体制のもとで、国際競争力を備えた人材の育成をはかる早稲田大学。

ここでは、両校の国際担当の理事が、国際戦略・国際展開の事例を比較しつつ、世界標準の大学としての新たな取り組みや、国際競争力の強化のための計画について論じる。

いわば国際戦略の早慶戦ともいえるセッションである。

**i. 『The Significance of Internationalizing the Curriculum and Teaching Major Courses in English - How should Japanese Universities Approach Internationalization? -』** ※使用言語:英語

ジョージ・ハラダ (広島経済大学教授 国際交流室室長、JAFSA 常務理事)

佐藤 由利子 (東京工業大学 留学生センター准教授)

Eric Korpel (元テンプル大学)

KAIE(韓国国際教育協会)代表

This session will start off with a panel discussion that will address the different models of internationalizing the curriculum and discuss the significance of doing so.

It will cover various models and programs of teaching major courses in English (both Japanese and foreign) and examine the failures and successes of these programs.

This will be followed by a short discussion and then a break out session into groups to discuss "new" models that universities can use to internationalize its curriculum.

This session will be conducted in English.

j. 『高校と大学の留学制度 — 海外体験と学びの機会の広がり』

堀切 一徳（郁文館夢学園校長）

服部 まこと（一橋大学国際戦略本部総括ディレクター、JAFSA 常務理事）

経済や社会のグローバル化に伴って、国境を越えて活躍する人材が求められる時代になってきた。また、若者のキャリア形成には、コミュニケーション能力や異文化適用能力が欠かせない時代でもある。そのような状況を反映して、派遣留学や海外研修などの国際プログラムは、大学だけでなく、高校でも果敢なとりくみを行っているところが増えている。

この分科会では、高校・大学のレベルにおいて、どのような海外派遣のプログラムがあり、どのような学びの機会を提供しているのかを概観し、その評価や今後の進展について分析する。交換留学・スタディーツアー・国際ボランティア・インターンシップなど様々な派遣の形を取り上げつつ、送り出しの阻害要因や留学カウンセラーの育成についても分析を加える。

# JAFSA 40<sup>th</sup> Anniversary 2008

Japan Network for International Education

新しい価値の創造と  
国際教育交流